

総合教育会議資料

＜導入について＞

○ 富士見市の状況

現在、本市の人口動態は微増しており、12月1日時点で111,137人となっている。

しかし、超高齢少子社会の影響などにより、キラリと輝く創生総合戦略の将来展望人口では、平成37年（2025年）頃をピークに以降は緩やかな人口減少が進むと予想されている。

そうした中、平成27年に実施した市民意識調査では、本市における市民の皆さんの定住意識についての調査項目で、「住み続けたい」と回答した人が76.3%となっている。

本市が人口10万人を維持し続け、将来にわたり「キラリと輝く」活力のあるまちを展開していくためには、市外からの流入人口を増やすことはもとより、市民の皆さんが市に誇りと愛着を持ってもらえることが大切である。

そのためには、子どもたちに自分のまちの魅力を伝え、愛着や誇りを持ってもらえるようシビックプライドを醸成し、大人になってからも、市に関わりたいという気持ちを持ってもらえることが重要である。

○ 株式会社 能作（富山県高岡市）の視察にて

11月7日に産業観光による地方創生として、伝統産業を生かした見学手法を取り入れた富山県高岡市の「株式会社 能作」を視察した。

株式会社 能作は、平成29年11月に那覇市で開催された全国都市問題会議でパネルディスカッションに参加し、新商品開発による伝統産業の復活などを足掛かりに、子供たちが地域に誇りをもつきっかけとなる工場見学に力を入れている。

＜守る伝統から攻める伝統へ＞

25年前に親子連れが見学に来た時に鋳物づくりの作業を見て、「勉強しないとこんな仕事をするようになるよ」といった言葉を耳にして愕然とし、職人の地位を高め、鋳物づくりを子供達が誇りに思ってもらえるような職業にしたいという思いから、新たな商品の開発と仕事の内容を広く見てもらうことが大切であるという認識が変わった。

工場見学に力を入れ、多くの人を訪れるようになると、従業員の意識も変わ

り、常に見られているという意識が仕事に対するやる気を引き出し、より高い技術の習得を自ら勉強するとともに、工場内もきれいに整理整頓するという意識が芽生えるようになった。

高岡市が子供たちに伝統工芸の素晴らしさを伝える授業「ものづくり・デザイン科」を始めてから、今年で13年目を迎えている。

そして、2年前に授業で見学に来た子供が、工場で働いている職人に憧れを持ち、研磨職人になりたいと入社した。

工場見学を通して産業と地域の素晴らしさを理解してもらい、故郷の素晴らしさを理解し、誇りを持つことが地方創生につながっている。